



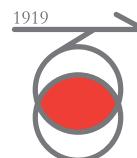
よろこびを敷きつめる

証券コード | 7971

株主・投資家のみなさまへ

第156期中間報告書

2019年4月1日～2019年9月30日



東リ創業百年

東リ株式会社

「百年の先」に向けて

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。このたび、第156期中間期(2019年4月1日～2019年9月30日)が終了いたしましたので、当社グループについてのご報告を申し上げます。

当社は本年12月1日に、『創業百年』を迎えます。これもひとえに、株主・投資家のみなさまの日頃のお引き立てとご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

1919年(大正8年)の創業以来、当社グループはトータルインテリアメーカーとして、常に機能性や意匠性に優れた製品を開発し、様々な生活空間に新たな価値を提供し続けています。この百年の歴史を振り返るとともに、「百年の先」へと繋いでいくため、中期経営計画『SHINKA-100』フェーズⅡ(2018～2020年度)の目標達成に向け、グループ一丸となって成長戦略を推し進めてまいります。

株主・投資家のみなさまにおかれましては、引き続きご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長

永嶋元博



Q1 東リグループを取り巻く事業環境についてお聞かせください

A 当社グループを取り巻く事業環境としましては、来年の東京オリンピック・パラリンピック開催を間近に控える中、都市部を中心とする大型再開発プロジェクトなどによる需要拡大が期待されます。当期はそれらの納材がピークを迎えつつあり、当社グループの総力を挙げてこれらを取り込んでいかなければなりません。

また、物流コストの上昇や前期までに発生した原材料コストの高騰に対応した販売価格の改定につきましては、継続的な取り組みによって、一定の効果を達成することができました。一方、建設業全般にわたる人手不足の問題は深刻化しており、当社グループ並びに当社代理店との共通課題として、技能士育成への取り組みを継続的に強化してまいります。

Q2 中期経営計画の進捗状況についてお聞かせください

A 当期は中期経営計画『SHINKA-100』フェーズⅡの2年目にあたります。初年度の出遅れをカバーし、3つのSHINKA(進化・深化・真価)からなる各重点戦略を着実に推進していくことが目標達成への鍵となります。

また、将来に向けた取り組みとしては、タイルカーペット用ナイロン原糸の一部内製化を推進いたします。川上技術の取り込みにより、品質向上とコストダウンに挑み、タイルカーペット事業のさらなる進化を目指してまいります。

そして、国内市場のみならず、海外市場に「伸びしろ」を求めていかなければなりません。当期より、海外営業部を「グローバル戦略推進部」と改称しました。単なる輸出営業部門ではなく、当社グループがグローバルに進化していくための推進役という位置付けです。引き続き、海外事業の質的・量的拡大を図ってまいります。

Q3 『創業百年』及び今後の会社の方向性についてお聞かせください

A 当社は本年12月1日に、おかげさまで節目の『創業百年』を迎えます。我々が最も大切にすべき会社の財産は、百年の歴史で紡がれた様々なステークホルダーの方々との「信頼」です。

今後も、世界レベルの確かな品質と技術に立脚した事業活動を推進し、「お客様目線」を大切にしながら、「共創の精神」を貫き、常に進化する企業グループを目指してまいります。

『創業百年』のあゆみ

東リが歩んできた「百年」の成長をご紹介します。

1919年

東洋リノリウム(株)設立
アメリカンリノリウム社より
G.A.パーカー技師が技術顧問
として着任



創業当時の伊丹工場

創業時のシンボルマーク

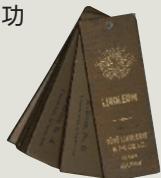


八幡宮への感謝を表し、
その使者である鳩をシンボル
としたことが由来。
“ハトのマークのリノリウム”
として親しまれていた

1920年

国産リノリウムの
開発に成功

12月末に国産第1号のリ
ノリウムが完成。翌年4
月には初製品が乾燥機よ
り出乾。リノリウムの販
売が開始された



当時の色見本

経営基盤の確立

リノリウムの研究・開発

1919

1949年

東京、大阪証券取引所に株式上場

1963年

厚木工場竣工



竣工当時の厚木工場



「MATICO TILE」ブラン
ドを保有する米国
「ルベロイド社」と技術
提携。日本では「マチ
コ」として展開した

1967年



シンボルマーク制定

鋭角的に上を向いているイ
ニシャルの「T」は、限りない
躍進と明日に向かって羽ば
たく企業の姿勢を表現

新分野への挑戦

技術導入とビニル床材への転換



1967年、帝人(株)との
合併により
第三の床材ニードル
パンチカーペット
「O.I.C.」(Outdoor-
Indoor-Carpent)発売

1969年

(株)グレース・カーペット設立
翌1970年に、コントラクト
カーペット「グレース」発売



ボウリング場に敷設
された「グレース」

1972年

凸版印刷(株)との技術提携により、国産初
のクッションフロア「CFシート」発売

1973年

統一ブランド“東リ”のシンボルマーク制定
スローガン決定「よろこびを敷きつめる」



従来のマークを改良し、
統一ブランド“東リ”の書
体も整え一体化。赤は
「情熱」、青は「誠実」、イ
ニシャルの「T」は「将来
への積極性」を表現

床材総合メーカーへの 展開

ホームマーケットへの本格的参入

1975年

テレビ番組「東リパネルクイズ
アタック25」放映開始



司会に俳優の児玉
清氏が起用され、
軽快な進行と“空
の旅プレゼント”が
人気を呼んだ

1982年 ニューオフィスづくりの先駆けとなるタイルカーペット「グランドアート GA-100」発売

1984年 滋賀東リカーペット(株)設立



滋賀地区全景

カーペットを製造する「滋賀東リカーペット(株)」、ビニル床シートを製造する「広化東リフロア(株)」、配送業務を行う「東リ中央配送センター」が集結

1990年

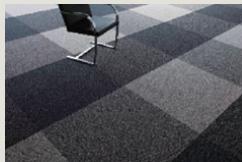


新シンボルマーク制定

やわらかな曲線でTの字をかたどったフォルムは、無限の可能性に挑戦する東リの姿勢を表現。美しく鮮やかなカラーは毎日の生活を自由に描く豊かな感性を、浮かび上がる「TOLI」の文字は、確かな技術力と国際性を表現

2004年 タイルカーペット「ソコイタリ」発売

2005年には内装業界として先駆けとなる「グッドデザイン賞」を受賞



2007年 「東リ日本館事務所」が景観重要建造物に指定される



創業翌年の1920年に、日本近代建築の先駆者である渡辺節氏の設計、鴻池組の施工によって建てられた「東リ日本館事務所」

2014年 東璃(上海)貿易有限公司を設立

2015年

タイルカーペット「GA-100シリーズ」グッドデザイン・ロングライフデザイン賞を受賞



1982年の発売以降の累計販売量が1億7千万㎡を突破。単一商品としては、世界一を誇る実績となった



2019

成長に向けた
新たな挑戦

価値の創造とグローバル化の推進

新たな技術革新

独自品質・性能・意匠の強化

事業領域の拡大と
供給体制の強化

トータルインテリアメーカーへの転換

1991年 「東リ株式会社」に社名変更

2000年 タイルカーペット・リサイクル実証プラント建設

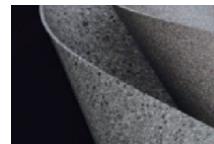
2003年 珪藻土を使用した環境対応壁紙「アースウォール」発売

2009年 東リ研修センター運用開始



2018年

国産初の高意匠
単層ビニル床シート
「ヒトエ」発売



「ヒトエ グランザ」
「ヒトエ ファイン」

2019年

「東リ日本館事務所」をリニューアル、「東リ インテリア歴史館」として開館

新経営理念の制定

『創業百年』を迎える



東リ創業百年

新任監査役のご紹介

え べ はる の ぶ 江邊 晴信 (常勤監査役)

このたび常勤監査役を拝命いたしました江邊晴信でございます。

これまでは当社営業部門におきまして、主に開発営業に携わってまいりました。これからは監査役として、公正不偏の態度を貫き、当社グループの健全で持続可能な成長と、企業価値の維持向上に資するべく、日々活動に専念してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

略 歴	1981年 4月	当社入社
	2003年 4月	当社西日本営業開発部長
	2010年 4月	当社執行役員営業本部副本部長
	2019年 6月	当社常勤監査役(現任)



わ た ぬ ま て る お 渡沼 照夫 (社外監査役)

このたび社外監査役を拝命いたしました渡沼照夫でございます。

2016年6月まであずさ監査法人のパートナーとして、主に上場会社の会計監査業務に携わってまいりました。当社においては、コーポレートガバナンスシステムの一翼を担う社外監査役として、会社の将来の成長と安定を盤石なものとするため尽力する所存です。皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

略 歴	1984年 8月	公認会計士登録
	2005年 6月	あずさ監査法人((現)有限責任 あずさ監査法人)代表社員
	2016年10月	渡沼公認会計士事務所 代表(現任)
	2018年 1月	帝人フロンティア株式会社 社外監査役(現任)
	2019年 6月	当社社外監査役(現任)



中部国際空港 第2ターミナルに 東リ製品をご採用いただきました。

中部国際空港は、中部圏の国際拠点空港として2005年に開港。2019年9月には第2ターミナルがオープンしました。搭乗者が利用するメイン通路には、耐久性とデザイン性を兼ね備えた単層ビニル床シート「ヒトエ グランザ」をご採用いただきました。

利用される方々の安全や快適を足元から支えています。

中部国際空港 第2ターミナル

所在地: 愛知県常滑市

納入製品: 単層ビニル床シート「ヒトエ グランザ」、タイルカーペット「GA-3600」 他
完工: 2019年9月



出発ロビーにつながるメイン通路。床に描かれた「よい旅を!」のメッセージに気分が高まります。

カーテンサンプル帳『fuful(フフル)』が好評です。



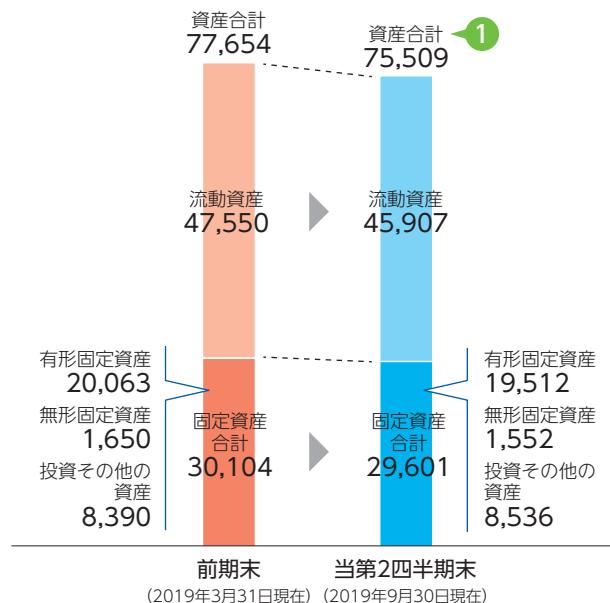
布+FULL=「生地がいっぱい!」という意味で名づけた新しいカーテンのサンプル帳『fuful(フフル)』。「えらべるって、楽しい!」をコンセプトにインテリアファブリックスを選ぶ楽しさをお届けしたいという思いを込めています。その名の通り、800アイテムものラインアップの中には、リネンやコットンなど天然素材の商品や、本格的な北欧デザインなど多彩なファブリックスを収録。住宅や宿泊施設など、さまざまなシーンで活躍する豊富な品揃えがユーザーに喜ばれています。



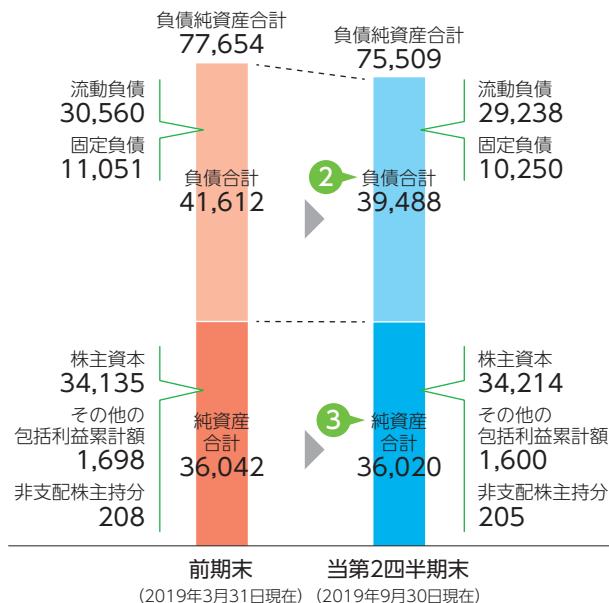
北欧のおやつタイム「フィーカ」を表現したデザイン (TKF10046)。

■ 四半期連結貸借対照表の概要 (百万円)

[資産の部]



[負債及び純資産の部]



POINT

① 資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べ1,642百万円減少し、45,907百万円となりました。これは主に、前年度の第4四半期に増加した売上に係る債権の回収が進み、受取手形及び売掛金が減少したことによるものです。固定資産は、前連結会計年度末に比べ502百万円減少し、29,601百万円となりました。これは主に、販売子会社の本社移転に伴い土地及び建物等売却したことによるものです。この結果、資産合計は、前連結会計年度末に比べ2,145百万円減少し、75,509百万円となりました。

② 負債の状況

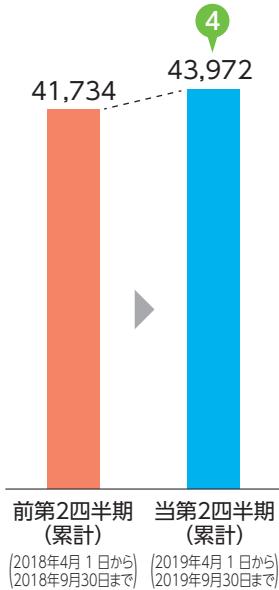
当第2四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べ1,322百万円減少し、29,238百万円となりました。これは主に、前年度の第4四半期に増加した仕入に係る債務の支払いが進み、支払手形及び買掛金が減少したことによるものです。固定負債は、前連結会計年度末に比べ800百万円減少し、10,250百万円となりました。この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べ2,123百万円減少し、39,488百万円となりました。

③ 純資産の状況

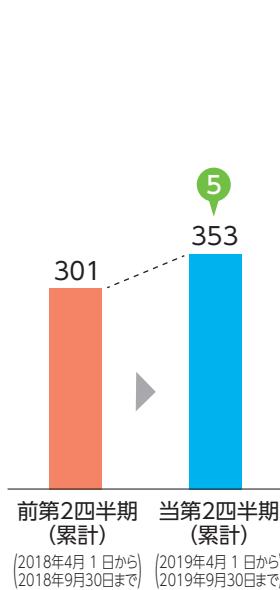
当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ21百万円減少し、36,020百万円となりました。これは主に、利益剰余金が増加したものの、その他有価証券評価差額金が減少したことによるものです。

■ 四半期連結損益計算書の概要 (百万円)

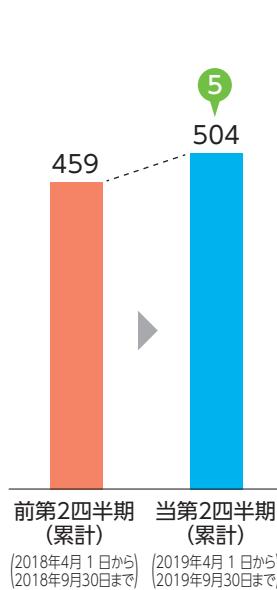
[売上高]



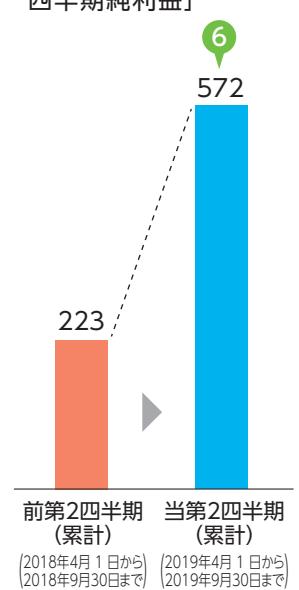
[営業利益]



[経常利益]



[親会社株主に帰属する
四半期純利益]



④ 売上高の状況

都市部を中心とした大型再開発案件への納材が本格化し、また前期並びに当期発売の新製品群の積極的な販促活動により、売上高は43,972百万円(前年同期比5.4%増)となりました。

⑤ 営業利益・経常利益の状況

広告宣伝費や運送費、減価償却費等の販管費の増加はありましたが、売上高の増加及び販売価格の改定や製造原価低減に取り組んだこと等により、営業利益は353百万円(前年同期比17.2%増)、経常利益は504百万円(前年同期比9.6%増)となりました。

⑥ 親会社株主に帰属する 四半期純利益の状況

販売子会社の本社移転に伴い固定資産売却益を計上したこと等により、親会社株主に帰属する四半期純利益は572百万円(前年同期比156.5%増)となりました。

セグメント別の営業状況

第156期 中間報告書 (2019年4月1日～2019年9月30日)

■ プロダクト事業

プロダクト事業におきましては、前期発売新製品の市場への浸透及び当期発売新製品の積極的な販促活動により、売上高は**26,353百万円(前年同期比5.3%増)**となりました。

塩ビ床材では、前期に発売したビニル床シート「ヒトエ」や「フロアリュームNW」が医療施設や教育施設など幅広い分野において採用が進み、また当期に発売した置敷きビニル床タイル「ルースレイタイル」や「ロイヤルシリーズ」の売上も伸長しました。

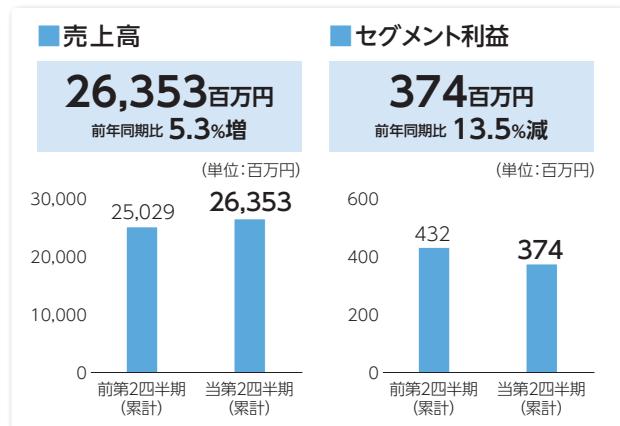
カーペットでは、オフィス需要が堅調である中、主力製品であるタイルカーペット「GA-100シリーズ」が好調に推移しました。また、ホテル需要の拡大に伴い、ロールカーペットの売上も増加しました。

壁装材では、高い機能性と豊富な意匠性を持つビニル壁紙「VS」や「パワー1000」が引き続き売上を牽引しました。

カーテンは、5月に発売した新総合見本帳「フル」の販促活動に注力し、各方面から高い評価を受け、カーテン全体の売上を押し上げました。

これらの結果、主要製品4分野での売上高はいずれも前年同期を上回りました。

利益面では、販売価格の改定や基幹システム更新による業務効率化、製造原価低減に取り組みましたが、減価償却費や新製品の発売・改廃に伴う販売促進費の増加等により、セグメント利益は**374百万円(前年同期比13.5%減)**となりました。



■ インテリア卸及び工事業

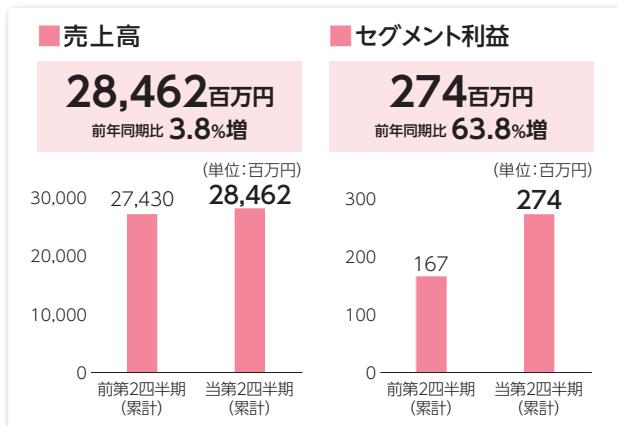
インテリア卸事業におきましては、堅調なオフィス・ホテル需要を背景に床材やカーペットなどの受注が増加し、またカーテンレール・ブラインドなどの窓回り商品の販促活動強化により、売上が好調に推移しました。工事業につきましては、都市部を中心とする大型物件の受注等により、売上が増加しました。これらの結果、インテリア卸及び工事業の売上高は**28,462百万円(前年同期比3.8%増)**となりました。

利益面では、販促活動強化のための販売促進費及び見本費の増加はあったものの、売上高の増加及び販売価格の改定に取り組んだこと等により、セグメント利益は**274百万円(前年同期比63.8%増)**となりました。

※プロダクト事業とは、主に当社及び関係会社が塩ビ床材やカーペットなどのインテリア製品を製造・販売する事業です。

※インテリア卸及び工事業とは、主に関係会社がインテリア関連商材の仕入販売及び内装工事を行う事業です。

(注) セグメントの業績は、セグメント間の取引を含めて表示しております。



会社概要

創 立	1919年(大正8年)12月1日
資 本 金	6,855百万円
従 業 員 数	883名
主な事業内容	塩ビタイル、塩ビシート、カーペット、カーテン、壁装材、接着剤等の製造販売
本 社	兵庫県伊丹市東有岡五丁目125番地
東 京 本 部	東京都港区東新橋二丁目10番4号
工 場	伊丹、厚木
ショールーム	札幌、東京、名古屋、大阪、岡山、高松
営 業 所	札幌、仙台、盛岡、郡山、新潟、長野、東京、大宮、千葉、水戸、八王子、横浜、名古屋、静岡、金沢、大阪、京都、神戸、岡山、広島、高松、松山、福岡、北九州、鹿児島、沖縄

役 員

〈取締役・監査役〉	代表取締役社長	嶋 元 博
	専 務 取 締 役	木 潤 ※
	常 務 取 締 役	天 野 宏 文 ※
	取 締 役	安 嶋 二 郎 ※
	取 締 役	徳 島 裕 恭 ※
	取 締 役	橋 本 絵 幸 ※
	取 締 役	今 崎 恭 生
	常 勤 監 査 役	富 田 芳 朗
	常 勤 監 査 役	江 邊 晴 信
	監 査 役	森 川 拓
	監 査 役	渡 沼 照 夫

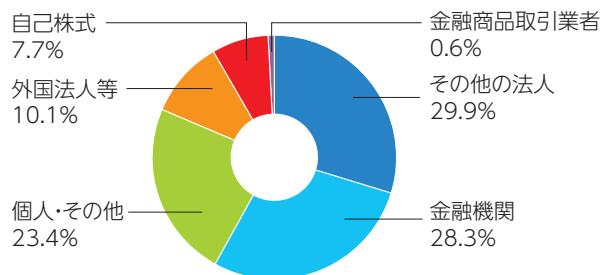
(注) 1. ※印を付した取締役は、執行役員を兼務しております。
 2. 横田給理および今崎恭生の両氏は、社外取締役であります。
 3. 森川拓および渡沼照夫の両氏は、社外監査役であります。

〈執行役員〉	執 行 役 員	中 野 洋 二
	執 行 役 員	荒 木 陽 三
	執 行 役 員	田 淵 俊 之
	執 行 役 員	工 藤 務
	執 行 役 員	立 花 敦 司
	執 行 役 員	小 西 典 昭
	執 行 役 員	長 森 正 知

株式の状況

発行可能株式総数	141,603,000株
発行済株式の総数	66,829,249株
株主数	6,878名

○所有者別株式分布状況



○大株主

株 主 名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本生命保険相互会社	3,641	5.9
株式会社トクヤマ	2,780	4.5
双日株式会社	2,532	4.1
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,151	3.4
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,884	3.0
株式会社三菱UFJ銀行	1,777	2.8
三信株式会社	1,730	2.8
東親会持株会	1,695	2.7
帝人フロンティア株式会社	1,489	2.4
三菱UFJ信託銀行株式会社	1,485	2.4

(注) 持株比率は、自己株式(5,141千株)を控除して計算しております。

株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
株主名簿管理人 事務取扱場所 (お問い合わせ先)	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 0120-094-777 (通話料無料) https://www.tr.mufg.jp/daikou/

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

■公告の方法

電子公告の方法により、東リホームページ(<https://www.toli.co.jp>)に掲載します。但し、電子公告によることができないやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載します。



東リ『創業百年』ロゴマーク デザインコンセプト

当社主力商品のシートやタイルの形状をモチーフに漢字の「百」を構成し、1919から伸びる矢印は創業から未来への発展をイメージ。中心の朱色は日本のメーカーとしての誇りを彩りました。反時計回りに90度回転させると、線の要素が数字の「100」に見える工夫をしています。



東リ株式会社

<https://www.toli.co.jp> 当社は、インターネット上にホームページを開設し、会社情報、商品紹介、レポートやニュースをご案内いたしております。

本誌に関する
注意事項

本誌に記載されている当社グループの計画・戦略・見通しのうち、歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しです。これらは、現時点で入手可能な情報に基づいた当社グループの仮定および判断によるものであり、実際の業績等は、様々な要因により、これらの見通しと異なる可能性があります。

